



シズケアサポートセンターだより



シズケアサポートセンターへの期待

特定非営利活動法人 静岡県介護支援専門員協会会長 村田 雄二

シズケアサポートセンターの開設、誠におめでとうございます。

静岡県介護支援専門員協会では、主要な活動の一つとして医療介護連携に取り組み、医療モデル・生活モデルの双方の情報共有により、多職種協働が実践できるよう活動を展開しています。

多職種協働を実践するために、医療知識や関連知識など基礎知識の習得にも力を入れて取り組んでいます。活動の実践とともに、研修会では医療介護連携を目的に関係団体の協力のもと「多職種協働のシンポジウム」等も数多く開催してきました。

介護支援専門員は、利用者本人の尊厳を保持しながら、その方の能力に応じ自立した日常生活を営むことができるよう、専門職を含めた多職種間の連携が円滑に行えるようにケアマネジメントを行っています。今回、シズケアサポートセンターが県内に開設されましたことは、こうした介護支援専門員の活動にとって強力なサポートになるものと大いに期待しています。

さて、介護支援専門員の役割の一つに、入院・退院時における医療機関等の多職種との連携があります。最近、平均在院日数が短縮する中でこうした場面に関わるが多くなってきました。入院時には、氏名・住環境・要介護度・障害などの認定・家族構成・生活の意向・かかりつけ医・薬・身体機能生活機能の状況・入院前の介護サービスの利用状況などの情報を入院先に提供します。そのための「入院時情報提供書の統一書式」のひな型が国から示され、それをもとに各市町が地域にあったものを作成して活用しています。退院時に

は、「退院時カンファレンス」への参加、病棟へ訪問し入院中の情報を入手しながら、病院と連携しながら退院後の生活を組み立てることを行ってきました。

退院後の在宅療養場面では、主治医との情報交換のため、各市町によって形式は異なりますが、「主治医との連絡箋」を作成し活用しています。主にFAXでのやり取りですが情報交換はかなり行われるようになったと思います。それ以外に実際の活動場面では、訪問診療・訪問看護への同席なども一部ですが行われています。最近では、医師・訪問看護師との連携にとどまらず歯科医師、薬剤師、栄養士等との専門職の方との連携や成年後見制度や日常生活自立支援事業など他制度を活用する場面も増えてきています。

介護保険制度がはじまって20年、当初は在宅療養では医療依存度の高い方は現在より少なく、そのような方は病院・施設に入院入所される方が多かったように思います。また、認知症の方も今ほど多くはなかったように思います。最近、自宅での看取りや認知症の方の一人暮らしの方も増加してきています。今まで以上に医療介護連携が十分に機能し、他制度を活用していかないと生活を支えられない状況となっています。

このような状況の中、今回、県医師会館にシズケアサポートセンターが開設されましたことは、現場で働く私達にとって大変心強く思います。シズケアサポートセンターの役割として、(地域の取り組みを支援) × (関係機関との懸け橋) が挙げられ、主要機能として①提言 ②相談 ③情報収集・発信 ④人材育成 と伺っています。現在、県

内の介護支援専門員の団体は、県レベルの静岡県介護支援専門員協会と市町レベルで23の介護支援専門員団体があります。それぞれの地域にあった医療介護連携が行われています。また、すでに地域によっては医療介護連携をサポートするセンターができています。それぞれの地域で医療介護連携の課題や優れた取組が行われています。

県レベルのシズケアサポートセンターでは、県内で行われている地域の医療介護連携の取り組みや活動の課題・良い取り組みなどの情報を入手して、県内全体でその情報を共有し、地域の医療介護連携の課題解決に活かすとともに、先進的な取組事例を他の地域にも広げていただきたいと思います。また、最近では生活困窮・権利擁護・介護者離職の問題などが医療介護問題をさらに複雑化しています。なかなか一つの職種では解決できない問題が山積しています。シズケアサポートセンターには医療介護の連携強化だけでなく、さらに地域の情報を収集するなど活動の幅を広げて、地域力を高める活動（調査研究も含めて）ができることを期待します。

さらに、静岡県では情報共有ツールとして「シズケア*かけはし」が既に運用されています。多職種の情報共有や情報発信において大変役立つツールになっているので、より多くの事業所が活用できるとよいと思います。そのためには、今までの活用状況をまとめ、利用にあたっての課題を整理し、場合によっては新しい機能を追加するなどのバージョンアップを行っていただき、より使いやすいツールになることを期待しています。

また、主要機能の中に「提言」があるように、活動の中から見えてきた課題や調査内容を整理して行政等へ提言できると良いと思います。県内の医療介護連携システムによって、病気や要介護状態になっても安心して地域で生活を続けられるような提言を期待しています。

最後に、今回のシズケアサポートセンターには、私たちの仲間である介護支援専門員が医療介護連携アドバイザーとして配置されています。地域で解決できなかった個別対応事例について、県内の取組を参考にしながら相談支援の役割も担えるのではないかと思います。シズケアサポートセンターは、県内にある専門職団体との調整ができる立ち位置になります。地域で解決できない個別課

題にも、各専門職団体の協力を得ながらアイデアを出し合い、個別課題の解決にも取り組むことができると思います。このような活動を行いながら成功体験の経験値を高めることによって、より支援困難な事例に対しても対応ができていくと思います。また、事例の個別課題から、県内各地域の医療介護連携における地域課題が明確になり、その課題を地域の医療介護連携をサポートするセンターと協力しながら、地域課題を解決していくこともできると思います。現在は一人の介護支援専門員の配置ですが、このような活動を行うには、皆様の協力が必要です。是非、応援していただければと思います。

シズケアサポートセンターは、医療介護連携に関わるすべての方からの支援・協力を受けながら活動を進めていくことができれば、静岡県全体で高いレベルでの医療介護連携のシステムが出来上がるはずで

是非、皆さんと共に素晴らしいシズケアサポートセンターを作り上げていきましょう。静岡県介護支援専門員協会も一緒に活動していきますので、よろしくお願いいたします。

村田 雄二（むらた ゆうじ）会長 ご略歴

主任介護支援専門員・作業療法士
1985年4月から 静岡リハビリテーション病院 作業療法科勤務
1992年4月から 静岡県富沢病院 作業療法科勤務
1996年4月から (福)駿河会ラポール駿河在宅介護支援センター勤務
2000年4月から (福)駿河会ラポール駿河居宅介護支援事業所 勤務
2006年4月から (現)(福)駿河会ラポール駿河居宅介護支援事業所 管理者
2009年4月から (現)(特非)静岡県介護支援専門員協会会長